

まち運営会議（第76回）議事録（概要）

平成28年11月24日 18:30～20:10 自由が丘会館3F

議長 木村常在

議題

報告事項

1. 研究報告書の紹介

「駅・まち」提言2011 公益社団法人・日本交通計画協会（JTPA）
—— 今後あるべき鉄道・駅とその周辺のまちづくりについて

（資料）コンパクトなまちの実現に向けた「駅・まち」の役割と、今後の整備の方向性

●渡邊代表 こんにちは。ご出席ありがとうございます。東京は54年ぶりに11月の雪になりました。これからますます寒くなります。お体に気を付けてください。9月の第75回まち運営会議は都合により休会とさせていただきます。自由が丘のまちづくりは、昭和63年のコミュニティマー
トづくりに始まり、平成12年の76haを対象にした中心市街地活性化法によるTMOとしてのジェイ・
スピリットの活動開始から、おかげさまで今年は都市再生推進法人に認定されました。これからも
目黒区と連携し、みなさんのご協力を得ながら、自由が丘の将来像を描き、都市計画道路と鉄道立
体化の整備等の課題にも取り組むこととなります。今日は、ジェイ・スピリットがまちづくりにお
いて協力をお願いするとともに、自由が丘について自主研究されると聞いております国土交通省と
関係の深い日本交通計画協会の萩原所長、幡歩（ハブ）研究部長さんにお越しいただいて、協会の
研究報告書「駅・まち」提言2011の概要を説明していただきます。卯月先生はご都合がござい
て議長を木村さんをお願いいたします。

●議長 ご説明よろしくお願いたします。

●研究部長 （パワポと資料を使って説明。約40分間。）

以下は資料からの抜粋

1) 駅・周辺まちづくり研究部会の概要

目的 連続立体交差事業の事業推進、駅前広場や自由通路等の交通結節点など、「駅+まち」空
間のあり方について調査研究及び提言を行う。

構成 黒川洸氏ほか大学教授2名、コンサルタント会社7社（東急設計、中央復建、・・・）

2) 駅・まち提言の主旨

まちづくりの今後の方向 ・コンパクト+ネットワーク型の都市へ

・駅周辺を核に、公共交通中心、人が主役

↓ これらを推進するために

・まちづくりには多様な主体が存在していることを前提にして
それぞれの立場で考える「きっかけ」としての提言である。

3) 駅・まち提言の内容（以下は、提言1～提言8のうちその一部分を抜粋）

提言1 「駅・まち」空間・施設は市民・住民の共有財産

- ・関係者全員が意識を共有し力を結集する体制づくりが不可欠である。
- ・全員で整備効果・成果を共有できる計画づくりと推進体制が必要である。
- 鉄道事業者の理解を得ながら、広く市民に開放されることが望まれる。
- 駅前広場の各種交通機能を調整して、歩行者空間、環境空間の増大に転化することが必要である。

提言3 望まれる市街地骨格とこれに向けた改善

～理想的な都市像と実現化方策を模索する

駅・周辺まちづくりに向けて

「現状の進め方で持続的で心地よい生活基盤づくりが本当に形成できるか」といった問題意識から、「望まれる市街地の骨格」を提示し、その実現に向け、現実とのすり合わせをどのように考えるかについての検討が必要である。

駅周辺の土地利用は、公共的な都市サービスや医療・福祉機能を集中させる地区を設定する。

提言7 持続的なまちづくりのソフトウェアを形成

- ・将来にわたってまちづくりを持続可能にさせるには、地域住民、行政、事業者、学識経験者、コンサルタント等の信頼関係と、相互に顔の見える人的ネットワークの育成が必要である。
- ・信頼感、人間関係、地域コミュニティ組織などが豊かであれば、自発的に協力しあって、まちづくり課題の最善の解決策を探り、まちづくりは将来に向けて公民協働により持続することが可能となる。

●議長 ご説明ありがとうございました。ご質問やご意見をお願いします。できれば提言の内容について質問して、それぞれの理解を深めてから、その後で全体的な意見・感想を述べていただいたらどうかと思います。

●提言2の中に、「市民・住民の一致した意見を集約し、これらの要望をもとにして、関係各者が適正に役割分担しつつ、・・・」とあるが、うまくいった例はありますか。

●JTPA 全体的にはどれも難しい。しかし、日向市ではリーダー的な方がいろいろな人とひざ詰めで何回も話し合っ、行政も立ち会っていたが、集約に至った。

●代表 このまち運営会議がそうしたことを目指して、事業者、住宅者の共通理解を図ろうとしている。難しいこともあるが、都市計画道路や鉄道立体化の事業は行政が中心になろうかと思う。

●課長 自由が丘では、行政と都市再生推進法人のジェイ・スピリットが連携して進めていくのが基本と思っている。

●代表 商業地域に関してはこれまでもいろいろと取り組んできた。しかし、踏切や低いガードの問題と鉄道によるまちの分断、防災の面から必要とされる道路の拡幅などは、これまでまちでは解決できなかった。行政が前に出てほしい。ただ、自由が丘は目黒区、世田谷区にまたがるので地域間の課題の共有と協力は必要であると改めて感じた。

●提言3で、望まれる市街地の骨格とあるが、自由が丘では都市計画道路ありきで、自由にまちの骨格を考えることはできない状況にある。

●課長 一般論としては、都市計画道路の必要、不要の議論がある。しかし、127号線については東京都の優先整備路線に位置付けられているので、目黒区としてとやかく言えない。ただ、道路の構造についてはみなさんで議論できる余地があると思っている。例えばその車道と歩道の幅員につ

いては標準的な仕様はあるが、それをまちで柔軟に考えられる状況になってきた。

●議長 自由が丘にふさわしい都市計画道路に関しては、このまち運営会議でも適当な時期に議論することになると思います。提言3でコンパクトシティについて触れていますが、目黒区はコンパクトシティについてはどのような考えをもっていますか。

●課長 東京都内や大都市圏の各駅周辺には必要なものがほぼ揃っているの、あえてコンパクトシティを作る必要があるかという考えがある。地方では居住地の近くに病院がないとか、役所がないとかで、それが有効であると思う。

●議長 提言4は、駅とまちとのシームレスな空間の実現で、各地の取組み例の紹介がありました。自由が丘でもかなり前から歩行環境の整備と関連して放置自転車対策などいろいろと議論されてきて、駅の南側に東急電鉄の協力もあり、目黒区と世田谷区がそれぞれ駐輪場を設置して改善されました。しかし、駅周辺では自動車、自転車、歩行者の適切な分離はできていません。将来的にも公共交通や徒歩で駅を利用することを推進するにしても、自転車の利用と駐輪場の整備はきちんと考えておかななくては快適な歩行環境整備はできないと思います。

●代表 駅の南側には700台収容の駐輪場があるが、北側にも駐輪場をとということで、駅前広場を整備するときはその地下にという話もあったが、結局は地下に作らなかった。将来、鉄道と駅が大きく変わるときに一体的に考えようということになった。そのときには提言にあるようなことが実現できたらよいと思う。

●議長 提言4のなかのICTの利用に関して、現状はどうか。

●JTPA すでにスイカ、パスモなどでは駅中の店で商品を買うことができる。駅とまちをシームレスにするという観点から、IC乗車券で改札口を入れて例えば5分以内なら別の改札口からも出られる(駅を通り道として利用する)とか、駅中で買い物をして同じ改札口から出るといったことはまだできていない。

●東急電鉄 通り抜けや駅内の一時利用について当社はまだしていない。メトロさんの一部の駅では実施している。さらに改札をなくして、カードをかざさなくても人が通るとセンサーで確認する、電車を利用する場合には、例えばホームの階段などを通ると無線で自動的に金銭の支払いが発生するような未来に向けた研究もある。

●議長 提言5は、ゆとりと賑わいの駅前を創出するレイアウトで、駅前ロータリーを防災拠点を兼ねる緑豊かな公園風に仕立てて、ロータリーの周長を利用してバス停やモータープールを配置するとあり理想的だと思います。自由が丘は周辺の道が狭く、広場も小さく、2つの鉄道路線がほぼ直交していますが、バリアフリーに関連付けて似たような状況の駅での事例研究はありますか。

●JTPA 国内ではいくつもあると思う。ヨーロッパにあるように、路面電車とバスが背中あわせに乗り換えできることが富山で実現されている。自由が丘でもタクシーでなくバスが電車に近いところまで来て乗り換えできるようになることが考えられる。

●代表 歩行者天国のときには、バスやタクシーも駅前広場に入れないので、通行止めになっていない学園通りはバス停付近をはじめバスや車でとても混み合う。あの辺りに車のプールができれば、もっとすっきりすると思う。いまは土地代が高くてまちにそういうスペースはできないが、再開発があれば可能になるかもしれない。

●JTPA 今日は一般論としての紹介であるが、自由が丘は空間が限定されているので、民間と公共の土地を組み合わせるという空間をどう作り出すかが課題になると思う。

●代表 都市計画道路によって、再開発を進める環境ができるかどうか。しかし、いま幅6mの127

号線では片側が9mセットバックしなければならない。該当する商人にとっては大変なことである。

●これまでの事例で駅周辺の再開発は、駅広の開発と同じ場で話し合われてきたのか。

●JTPA 残念ながら民間の事業者と鉄道事業者と行政のみなさんが一体となって、そういう空間を作り出すといったことができてこなかった。しかしいまは国なども、どうやったら関係者が一体になって計画づくりや、作った後の活用とかに取り組む枠組みができるかをトライしている。関係者が互いに人と人とでつながり、信頼し、持続的に関係を構築し続けられるかがポイントだと思う。それにはルールや国の制度の助けも必要になるだろう。

(鉄道事業者は駅広の開発にはかかわるが、周辺の再開発には関与していない。)

●社長 聞いていて、鉄道の持っている大事さが身に染みた。最近では東急電鉄さんとよい交流を持ちながらきている。これから期待することは鉄道と民間とがどう一緒に開発するかということだと思う。それがないと自由が丘には余分の土地が出てこない。これから先の時代に、鉄道に何を望むかといったことをみなさんに考えてもらいたい。

●東急 当社は鉄道と開発を両輪として地域に密着して進めてきた。まちから求められる鉄道と大量輸送機関としての安全な鉄道が両立するようにしたい。開発と鉄道と一緒にやっていくことによって、価値のあること、例えば便利さ、人に対して優しいとか、まち自体の生産性をあげる仕組みとかが見えてくると思う。自由が丘の取組みは深みもあり歴史もあって、将来伸びていく、すばらしいものと感じている。私も鉄道がどうあったらよいかについて考えていきたい。

●こうした立派なご提言をいただきありがとうございます。具体的に理解していくためには、我々自由が丘自身が一致したまちづくりの計画を持つこと、まちの将来像を早く描くことが必要になると思う。

●代表 これまで自由が丘のまちにはいろいろ計画はあったが、都市再生推進法人に認定されたこともあり、実態の伴うまちのグランドデザインを描こう、そのために日本交通計画協会さんのお知恵をいただき、他の事例を勉強して新しい将来計画を作っていこうということです。

●自分たちの計画、未来図を持つことで、先生方の提言が具体的に活かされると思う。まちの人も若い人たちも集まって意見を出し合い、その中から未来像を作りたい。それは時間とともに変化するかもしれないが、そういう機会を街の中でもっと持つことが必要だと思う。

●まちで多くの意見が出て、それがまとまるのは理想的であるが、なかなか意見を言える機会がなかったり、自分にプランができていなかったりというのも現実だと思う。まちの人も行政も一緒になってやっていく中で計画はまとまるようになると思う。それにはタイミングというのがあって、これまでは行政と鉄道事業者が同じタイミングになってやっていこうとなり切れなかった。それがこういう会議を重ねることによって、いよいよ整いつつあるのかなという感じがしてきている。まちの中に再開発を検討している地区もあり、グランドデザインが描ける環境ができるいいチャンス、そして今日のようなご提言をいただいて、まちはよい方向に向かいつつあるなという感想です。

●総務 今日は長時間にわたり貴重なご意見をいただき、そしてJTPAのみなさんありがとうございました。各地の事例研究を通して一般化されたご提言が自由が丘で活用されるよう、これからJTPAと私たちジェイ・スピリットのメンバーを中心にして何回かにわたりお互いに持っている情報をやりとりしながら勉強を重ね、それをもとに地元のみなさんとも意見を交わしてまちづくりを進めていきたいと考えています。まちづくりは牛歩のような歩みで、後から見ると少し進んでいるなと分かるようなものですが、これからもみなさんのご尽力ご協力をよろしくお願いいたします。

●議長 今日はこれで終わります。ありがとうございました。 ■